

MT-1200

MULTI TEMPERAMENT TUNER

取扱説明書

KORG

使用上の注意

使用する場所

故障を避けるために、次のような場所で使用しないでください。

- ・ 直射日光の当たる場所
- ・ 温度や湿度が非常に高い場所や低い場所
- ・ 砂やほこりの多い場所
- ・ 強い磁気を帯びた場所

取扱いはやさしく

スイッチなどに無理な力を加えたり、本体を落としたりすると故障の原因となります。

お手入れ

外装のお手入れは柔らかい布で乾拭きしてください。ベンジン、シンナー系の液体や強燃性のポリッシュなどは絶対に使用しないでください。

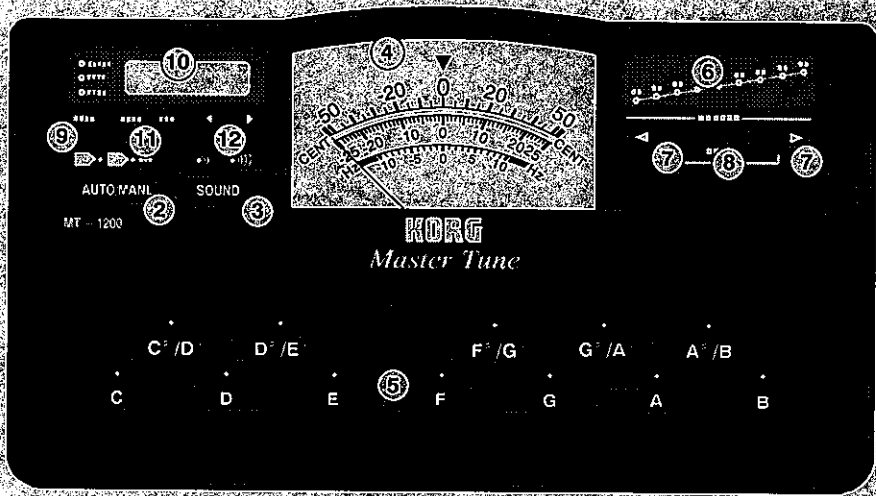
保証書の手続き

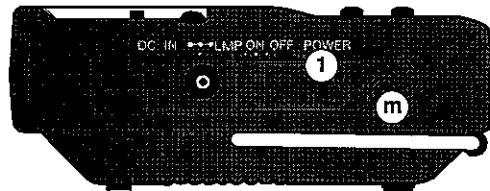
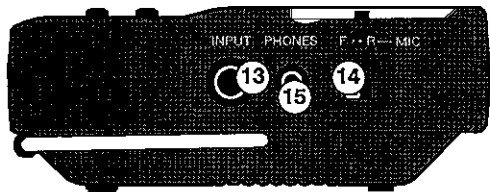
保証書は購入店での手続きが行われていない場合、無効となることがあります。必ず販売店で所定の手続きを行い、大切に保管してください。

目次

各部の名称と機能	4
チューニング基礎知識	8
メーターを見ながらのチューニング (METERモード)	10
オート・チューニング	10
マニュアル・チューニング	12
基準音を聞きながらのチューニング (SOUNDモード)	14
キャリブレーション	16
音律の設定 (TEMPERAMENT SELECTモード)	18
楽器による設定 (INSTRUMENT PROGRAMモード)	22
INSTモード・チューニング (METER/SOUNDモード)	24
MT-1200のモード	25
バック・アップ・メモリ	27
電池の交換	28
スベック&オプション	31
付録	32
アフター・サービス	34

各部の名称と機能





① POWER スイッチ

OFF: パワー・オフ

ON: パワー・オン

LAMP: パワー・オンの状態で、メーター内が照明されます。

② AUTO/MANL (METER) スイッチ:

このスイッチを押すとMETERモードになります。AUTOモードとMANUALモード (AUTO = ±50cent/MANUAL = ±50cent、±25cent) を切り替えるときに使用します。

③ SOUND スイッチ:

このスイッチを押すとSOUNDモードになります。サウンドのモード (SOFT/LOUD) を切り替えるときに使用します。

④メーター

入力した楽器の音のピッチ誤差を表示します。

⑤NOTEスイッチ

チューニングする音名を選びます。

⑥OCTAVEインジケータ

チューニングする音のオクターブを表示します。

⑦◀/▶スイッチ

基準音などのオクターブおよびINSTモードのアップ・ダウンに使います。

⑧INSTスイッチ

チューニングのノート・セレクトがNORMAL SELECTモードの時にこのスイッチを押すとINST

モードになり、INSTモードの時に押すとNORMAL SELECTモードになります。

⑨MODEスイッチ

CALIB SELECT、TEMPE SELECT & PROG、INST PROGのモードを切り換えます。

⑩4ケタLED

キャリブレーション値、テンパラメント・ナンバー、インストルメント・ナンバーを表示します。

⑪CLEARスイッチ、SETスイッチ

TEMPE PROG/INST PROGモードの時にデータの消去 (CLEARスイッチ) および書き込み (SETスイッチ) を行います。

⑫ UP スイッチ、DOWN スイッチ

CALIB/TEMPE/INST モードの数値等を設定します。

⑬ INPUT 端子

エレキギター、電子楽器等を接続する入力用端子です。この端子にプラグを接続すると内蔵マイクは働かなくなります。

⑭ MIC FRONT/REAR 切り替えスイッチ

フロントパネルのマイクを使用するか、裏面のマイクを使用するかを切り替えます。立てて使用する場合で音源が向う側にあるときは R (REAR) にします。

⑮ PHONES 端子

SOUND モードの時に基準発振音を出力する端子です。アンプ、ヘッドホンなどに接続してモニターします。

⑯メーター・0調整・ボリューム穴

長い間使用していると、経年変化によりメーターの指針の0位置がズレてしまうことがあります。このような状態では正しいチューニングをすることができませんので、次の方法でメーター指針の0位置を調整してください。

- 1.POWER スイッチを ON にします。
- 2.SOUND スイッチを 1 回押します。
- 3.ふたをはずして穴に+または-のドライバーを差し込み、中の穴とかみ合うようにしてから回して、針が中央の0と合うように調整します。
□平らで安定した場所で行ってください。

チューニング基礎知識

1. セント表示について

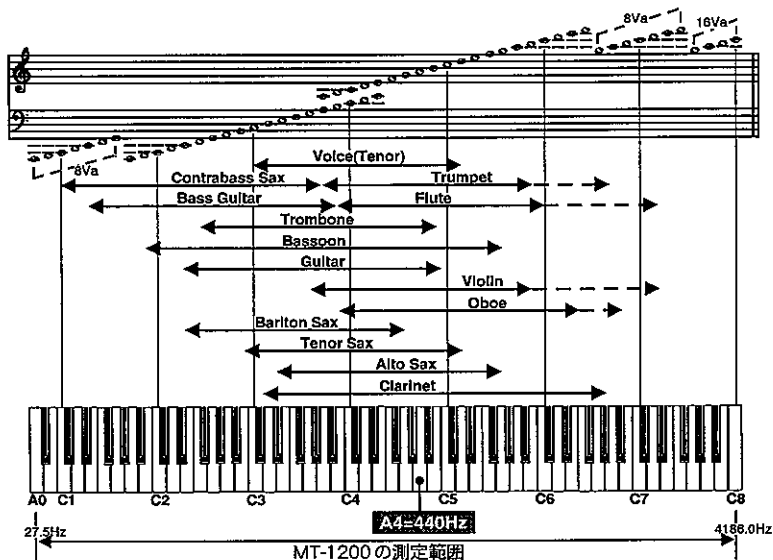
セント (CENT) は音の高さの比率を示す最小の単位です。半音が100セント、1オクターブが1200セントとなります。

2. 標準ピッチとキャリブレーション

各楽器のチューニングを合わせるために、ピアノの中央のラ (A4=440Hz) が標準ピッチとして用いられています。この標準ピッチは地域や時代によって多少誤差があり、近年ではやや高めめのピッチでチューニングされることが多くなっています。(A4 =

441~444Hz) MT-1200ではA4の標準ピッチを390Hz~470Hzの範囲で最小0.1Hzステップで設定することができます。(標準ピッチを設定することをキャリブレーションといいます。)

3.各楽器の音域及びMT-1200の測定範囲



メーターを見ながらの チューニング

(METER モード)

オート・チューニング

① POWER スイッチを ON にします。

※電気楽器（エレキギターなど）のチューニングを行うときは、先に INPUT 端子と楽器を接続しておきます。

電源 ON 後 1 秒間程度キャリブレーションと
テンペラメントを表示します。



TEMPERAMENT SELECT モードで 0 CENT NOTE を
A 以外に指定したいときには 0 CENT NOTE 名を表示
します。



②楽器をMT-1200の内蔵マイクに近付けます。
INPUT端子に接続した電気楽器等のチューニングの際にはその必要はありません。

③楽器音を単音で鳴らします。管楽器を吹くときはビブラートなどがかからないように注意してください。MT-1200がその音の音名を自動的に感知し、一番近い音のNOTEスイッチが点灯します。

④チューニングしたい音名とNOTEスイッチの音名が同じになった場合は、メーターの表示を見て、針が中央にくるように楽器のピッチを調整します。チューニングしたい音名とNOTEスイッチの音名が違った場合は、同じになるように楽器のピッチを調整してから、メーターでチューニングします。

注：倍音が多い音など、音色によってはまれに測定しにくい場合があります。そのような場合は音量を変えてみるなどして測定し直してください。

マニュアル・チューニング

① POWER スイッチを ON にします。

※電気楽器（エレキギターなど）のチューニングを行うときは、先に INPUT 端子と楽器を接続しておきます。

② 楽器を MT-1200 の内蔵マイクに近付けます。INPUT 端子に接続した電気楽器等のチューニングの際にはその必要はありません。

③ AUTO/MANL (METER) スイッチを押して MANUAL モードにします。

④ チューニングしたい音名の NOTE スイッチを押します。電源 ON 時には前回チューニングしたときの音名とオクターブになっていますので、オク

ターブを低くしたいときは◀スイッチ、高くしたいときは▶スイッチを押してください。（例えば◀スイッチを2回押すと、2オクターブ低くなります。）

⑤ 楽器音を単音で鳴らします。管楽器を吹くときはビブラートなどがかからないように注意してください。

⑥ メーターの表示を見て、針が中央にくるように楽器のピッチを調整します。

⑦ 弦楽器などの場合は各弦について④～⑥の操作を行ってください。

注：倍音が多い音など、音色によってはまれに測定しにくい場合があります。そのような場合は音量やオクターブのセッティングを変えてみるなどして測定し直してください。

○±50centモードと±25centモード

MT-1200では電源ON時にはAUTOモード（±50cent）になっていて、ここでAUTO/MANLスイッチを押すとMANUALモードになり、メーターの上の方の目盛りで基準ピッチと楽器のピッチのズレ

を知ることができるようになります（±50cent）。しかし、さらに厳密なチューニングを行いたい場合には、AUTO/MANLスイッチを押してモードを±25centモードに切り換えてピッチを調整します。この時は下の方の目盛りが使用されます。現在±50cent/±25centどちらのモードにいるかはAUTO/MANLスイッチ右上のLEDで識別します。赤になっているときが±50centモードで、緑になっているときが±25centモードです。

基準音を聞きながらの チューニング

(SOUND モード)

※ MT-1200 の内蔵スピーカーを使用しないときは、SOUND OUT 端子を外部アンプ、ヘッドフォン等に接続しておきます。

- ① MT-1200 の POWER スイッチを ON にします。
- ② アンプ等のパワー・スイッチを ON にします。この時、アンプのボリュームは下げ切っておいてください。

③ モード・スイッチの SOUND スイッチを押します。

④ チューニングしたい音名の NOTE スイッチを押し、ボリュームを上げていくと、アンプからその音が出力されます。(オクターブを変えたいときは◀/▶スイッチを押します。)

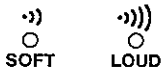
→出力される音の音域は C2~B5 の 4 オクターブです。

⑤④でセットした基準音を聴きながら楽器音などのピッチを合わせてください。

◎この後METERモードのマニュアル・チューニング(P.12～)の③～⑤の操作を行うことによりピッチを微調整することができます。

○SOFTモードとLOUDモード

MT-1200のSOUNDモードには、SOFTとLOUDの2つのモードがあります。LOUDモードにするとSOFTモードの時よりSOUND OUTから出力される音のレベルが上がり、基準音をより大きな音で聞くことができます。現在SOFT/LOUDどちらのモードにいるかはSOUNDスイッチ上の2つのLEDでわかります。



☆効果的なチューニングの方法

極端にピッチがずれている楽器などをチューニングする時は、まずSOUNDモードで基準音を聴きながら粗調整を行った後、METERモードでメーターを見ながらのチューニングによって微調整を行うと、正確に早くチューニングすることができます。

→ SOUNDモードからMETERモードに移るにはAUTO/MANLスイッチを押します。

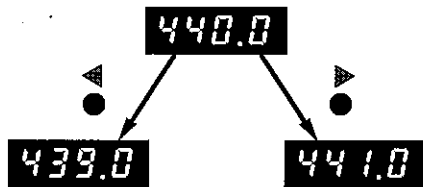
→ MT-1200の電源を入れたときは、モードはAUTOモードになっています。

キャリブレーション

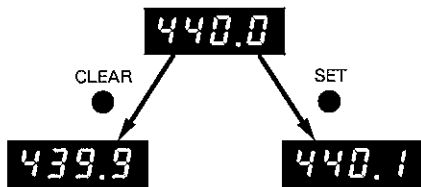
(標準ピッチの設定)

- ① POWER スイッチを ON にします。
- ② 4 ケタ LED の下の MODE スイッチを押します。
- ③ “CALIB” と表示されている左側の LED が点灯し、その右側の 4 ケタ LED に現在のキャリブレーション値が表示されます。
 - ④ UP/DOWN スイッチで、希望する標準ピッチに設定してください。390～470Hz の範囲内で、0.1Hz ごとに設定することができます。UP を押すと 1Hz ずつ高くなり、DOWN を押すと 1Hz ずつ低くなります。
 - METER モードになっているときは、チューニングを行いながらキャリブレーションが行えます。
 - SOUND モードになっているときは、基準音を確認しながらキャリブレーションが行えます。





このスイッチをしばらく押し続けると連続的に数値が変わります。また、CLEARを押すとピッチは0.1Hzずつ低くなり、SETを押すと0.1Hzずつ高くなります（押し続けても連続的には変わりません）。



⑤キャリブレーションの設定が終わったら、MODEスイッチを3回押して、METER/SOUNDモードに戻します。

音律の設定

(TEMPERAMENT SELECT モード)

MT-1200には、多種多様の音律があらかじめセットされています。それらの中から使用する音律を選び、お手持ちの楽器をチューニングすることができます。

- ①4ケタLEDの下のMODEスイッチを何回か押して“TEMP”の左側のLEDが点灯するようにします。



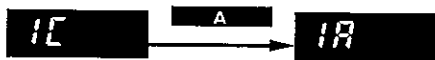
- ②音律のNo.(TEMPE No.) が4ケタLEDに点灯して表示されます。↑

音律一覧

TEMPE No.	音律	転調	ストレッチ	0 CENT
1	平均律	○	○	○
2	純正律 (長調)	○	○	○
3	純正律 (短調)	○	○	○
4	ミーントーン	○	○	○
5	ピタゴラス	○	○	○
6	ヴェルクマイスターⅢ	○	○	○
7	キルンベルガーⅢ	○	○	○
8	ヴァロッチィ&ヤング	○	○	○
9	プログラマブル (オクターブ)	-	○	-
0	プログラマブル (88音)	-	-	-

注：平均律はその特性上、転調しても音律データは変化しません。

※転調の欄に“O”がある音律ではNOTEスイッチを押すとそのNOTEキーで調を設定することができます。

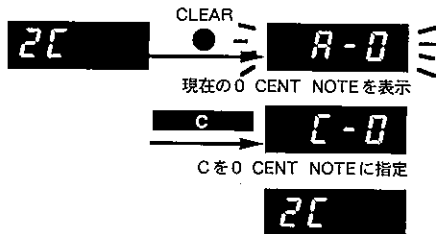


※ストレッチ欄に“O”がある音律はSETスイッチを押すとストレッチの設定にすることができます。ストレッチにすると、高/低の音域で高/低音感が多少強調されているため、聴感上自然な響きが得られます。

MT-1200にはストレッチは3種類ありSETスイッチを押すたびに「なし」→1→2→3→「なし」……となります。3になる程、高/低音感が強調されたように聞こえます。↗



※0 CENTの欄に“O”がある音律は任意のノートが基準ピッチ±0セントになるように音律データを変更できます。



現在の0 CENT NOTEを表示

Cを0 CENT NOTEに指定

設定後、元の表示に戻る

調やTEMPE No.を変えても0セントに指定されたノートは維持されます(データは付録P33参照)。

③音律の種類を変えるときはUP/DOWNスイッチでNo.を変えます。TEMPE No.1~8の音律を選んだときはNOTEスイッチで調を設定します。この後METERまたはSOUNDモードに戻ると今選んだ調で通常のチューニングが行えます。(MODEスイッチを2回押すと戻ります。)



TEMPE No.を変えるとストレッチはキャンセルされ、キーはCにリセットされます。

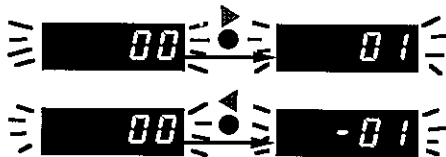
④③で9、0を選んだときは、MT-1200に自分の好みの音律を9、0それぞれのTEMPE No.に記憶させることができます(TEMP. PROGRAMモード)ので、民族楽器などのチューニングが手軽に行えるようになります。

NOTEスイッチで音名を選ぶと(TEMPE No.0のときは◀/▶スイッチでオクターブも選べます)現在その音が平均律の音律と何セントの差があるかが4ケタLEDに点滅表示されます。

※No. 9の場合は1オクターブ分の設定で、全てのオクターブに対してその音律が有効になります。No. 0の場合はA0からC8までの88音一つ一つに対して設定が可能です。



- ⑤ UP スイッチを押すとその音名の音律が平均律を基準に1セントステップで高くなり、DOWN スイッチを押すと1セントステップで低くなります。



- ⑥ その音名に関する設定が終わったら SET スイッチを押します。セットしない場合はその NOTE スイッチを押すとキャンセルになります。音名及びセント表示が消えて TEMPE No. (9 または 0) が点灯しますので他に設定したい音名を選び⑤～⑥の操作を繰り返します。

- ⑦ 全ての音名に関する設定が終わったら、MODE スイッチを2回押し、METER/SOUND モードに戻すと、今設定した音律でチューニングが行えます。

※ CLEAR スイッチを押すと、4ケタ LED に "CLEAR" と点滅表示されます。



このとき SET スイッチを押すとその TEMPE No. (9 または 0) の設定が全てリセットされ ±0 セントになります。SET 以外のスイッチを押した場合はリセットされません。

楽器による設定

(INSTRUMENT PROGRAM モード)

このモードでは普段チューニングに使うキーだけを MT-1200 にプログラムすることができます。例えばバイオリンなら4弦から1弦までの音名 G、D、A、E をプログラムしておくことでチューニングの時にいちいち NOTE スイッチや◀/▶ スイッチを押してチューニングするキーを選ばなくても、INST スイッチを押してから◀/▶ スイッチを押すだけで、チューニングに使うキーをプログラムされたオクターブの音名で簡単に選ぶことができます。最大15音まで設定できます。

①4ケタLEDの下のMODEスイッチを何回か押して“INST”の左側のLEDが点灯するようにします。



②4ケタLEDにCH No.が点滅します。



既にプログラムされている場合は点灯します。

*CH (チャンネル) No.とはチューニングするキーのNo.で、例えばバイオリンを1弦からチューニングするときは、CH No.1にG、2にD、3にA、4にEと設定しておくことで、順番にチューニングで

きるようになります。

③NOTEスイッチ及び◀/▶スイッチを押してそのCH No.に割り当てたいキー及びオクターブを選びます。

④SETスイッチを押すとそのCH No.に選んだ音が記憶され、次のCH No.に変わります。必要があれば③～④の操作を繰り返し設定します。また、UP/DOWNキーでもCH No.を変えることができます。

⑤設定終了後、MODEスイッチを1回押すとMETER/SOUNDモードに戻ります。

※CLEARスイッチを押すと、4ケタLEDに“CLEA”と点滅表示されます。



このときSETスイッチを押すと現在のプログラムが全て消され“CH-1”を点滅表示します。SET以外のスイッチを押した場合は消去されません。

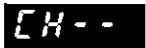
※このモードで設定できるのは音名とそのオクターブのみですが、キャリブレーションや音律も現在の状態が電源オフ時にもバック・アップされます。

INSTモード・チューニング

INSTRUMENT PROGRAM モードでプログラムを終了した後、INSTモードでチューニングを行うときは、INSTスイッチを押します。そのとき4ケタLEDには以下のように点灯表示されます。また、そのCH No.にプログラムされているキーやオクターブのLEDが点灯します。チューニングを進めるときは、◀/▶スイッチを押してCH No.を変えます。

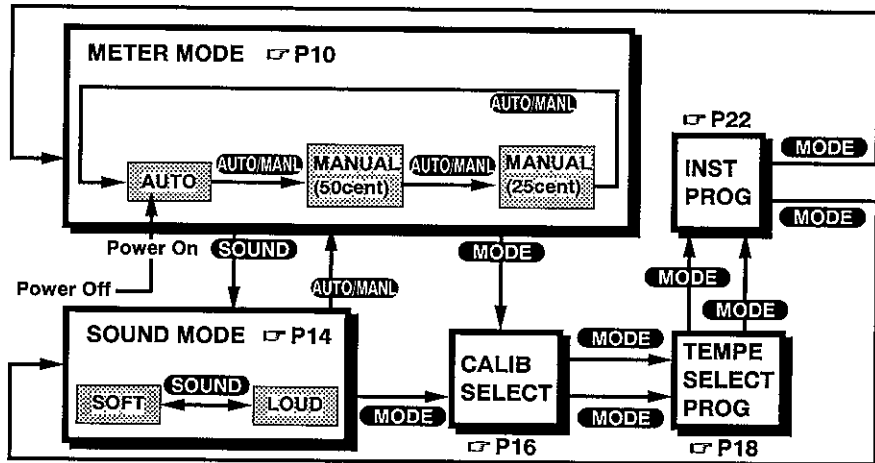


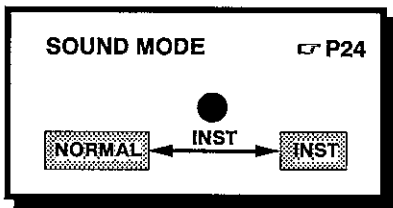
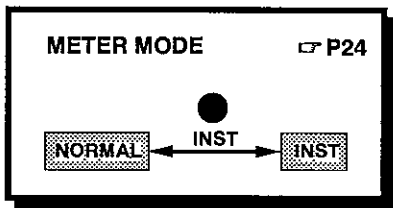
※何もプログラムされていない場合は下記のように点灯表示しますので、INSTRUMENT PROGRAMモードでプログラムしてからINSTモードでのチューニングを行います。



※INSTモードを解除するときは、INSTスイッチを押します（通常に戻ります）。

MT-1200 のモード





バック・アップ・メモリ

MT-1200は電源をオフにしても、各モードでセットした次の値を記憶しています。

- ・キャリブレーション値
- ・TEMPE No.
- ・TEMPEプログラム・データ (No.9、0)
- ・0 CENT NOTE
- ・INSTプログラム・データ
- ・SOUNDモード SOFT/LOUD
- ・NOTE、OCTAVE (METER/SOUND) 共通

電池の交換

使用中に電池の電圧が低下してくると4ケタLEDが点滅します。



それでも、しばらくの間は動作しますが正確なチューニングが行われにくくなります。速やかに新しい電池と交換してください。

※電池はメモリのバック・アップ電源も兼ねていますので、以下の場合には初期値にリセットされます。(記憶していたプログラム等はすべて初期値に戻されます。)

→電池を本体から抜いたとき (ACアダプターが本体とコンセントを接続している場合はバック・アップされます。)

→電池が消耗したとき

→ACアダプターを本体に接続したままコンセントから抜いたとき

初期値

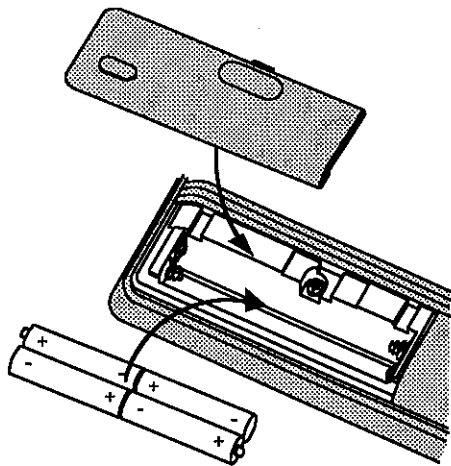
キャリブレーション値 = A4 = 440Hz

オクターブ = 0

ノート = A

TEMPE No. = 1

TEMPE 9/0 データ = 0



電池交換の方法

- ①新しい単4の乾電池を4本用意します。本体に記憶したプログラムを消したくない場合はACアダプターを本体とコンセントに接続します。
- ②裏面のバッテリー・カバーを図の矢印の方向にスライドさせてバッテリー・ケースを開けます。
- ③古い電池を取り出します。
- ④新しい電池をセットします。その際+と-の方向を間違えないように注意してください。誤ってセットすると故障の原因になる場合があります。

注意：

→電池を交換するときは、必ず一度に4本全部を新品の電池と交換してください。一度に4本全部を

交換しなかったり、古い電池を使用すると4ケタLEDで“BATT”が点滅していないときでも動作が停止しチューニングができなくなることがあります。また電池の液モレの原因にもなります。
→長い間使用しないときは電池を抜いておいてくだ

さい。電池が液モレしたりすることがあります。
→メーターのランプをつけたままにしておくと非常に電池を消耗します。必要のないときはランプは消してお使いください。

スペック & オプション

機能: オート (±50cent)、マニュアル (±50/25cent)、
サウンド

モード: キャリブレーション・セレクト、テンペラメン
ト・セレクト/プログラム (8プリセット・2ユーザープ
ログラム)、インストゥルメント・プログラム

スケール: 12平均律音階、純正律 (長調、短調)、ミー
ントーン、ピタゴラス、ヴェルクマイスターⅢ、キルン
ベルガーⅢ、ヴァロッティ&ヤング、プログラマブル×
2

メーター: セント表示 (-50~+50セント)

測定範囲:

オート A0 (27.5Hz) ~C8 (4186.0Hz)

マニュアル

A0 (27.5Hz) ~B0 (30.8Hz) 倍音に反応

C1 (32.7Hz) ~C8 (4186.0Hz) 基音に反応
88音、(A4 = 440Hz時)

測定精度: ±1セント以内 (メーター摩擦を除く)

基準発振音 (SOUNDモード時): C2 (65.4Hz) ~
B5 (987.77Hz)、4オクターブ、(A4 = 440Hz時)

キャリブレーション範囲: A4 = 390.0Hz~470.
0Hz (0.1Hzステップ)

接続端子: INPUT、PHONES

電源: 単4乾電池×4本、ACアダプター (KAC-621
DC6V)

電池寿命: 15時間/オート・モード、標準

外形寸法: 184 (W) × 100 (D) × 35 (H)

重量: 400g (バッテリー含む)

付属品: 単4乾電池×4、専用ACアダプター、キャリン
グ・ケース

オプション: グースネック・スタンド

☆製品の仕様及び外観などは、改良のため予告なく変更す
ることがあります。

付録

音律データ

C調、0 CENT NOTE = A、単位 cent

TEMPERAMENT	C	・	D	・	E	F	・	G	・	A	・	B
1.平均律	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2.純正調 (長調)	+16	-14	+20	+31	+2	+14	-16	+18	-12	0	+33	+4
3.純正調 (短調)	+16	+49	+20	+32	+2	+14	+47	+18	+30	0	+34	+4
4.ミントーン	+10	-14	+3	+20	-3	+14	-10	+7	-17	0	+17	-7
5.ピタゴラス	-6	+8	-2	-12	+2	-8	+6	-4	+10	0	-10	+4
6.ヴェルクマイスターⅢ	+12	+2	+4	+6	+2	+10	0	+8	+4	0	+8	+4
7.キルンベルガーⅢ	+10	+1	+3	+4	-3	+8	+1	+7	+2	0	+6	-2
8.ヴァロッティ&ヤング	+6	0	+2	+4	-2	+8	-2	+4	+2	0	+6	-4

転調 (例: ヴァロッティ&ヤングをC調からD調に転調する場合)

0 CENT NOTE = A、単位 cent

原理としては、まずデータをCからDの位置までシフトする。

8c	C	・	D	・	E	F	・	G	・	A	・	B
	+6	0	+2	+4	-2	+8	-2	+4	+2	0	+6	-4

Aの基準ピッチが±0になるよう自動的に全体から4centを減じて終了。

	C	・	D	・	E	F	・	G	・	A	・	B
	+6	-4	+6	0	+2	+4	-2	+8	-2	+4	+2	0

8d	C	・	D	・	E	F	・	G	・	A	・	B
	+2	-8	+2	-4	-2	0	-6	+4	-6	0	-2	-4

0 CENT NOTE 指定 (例: 純正C調のとき0 CENT NOTE = AをCにする場合)

2C、0 CENT NOTE = A、単位 cent

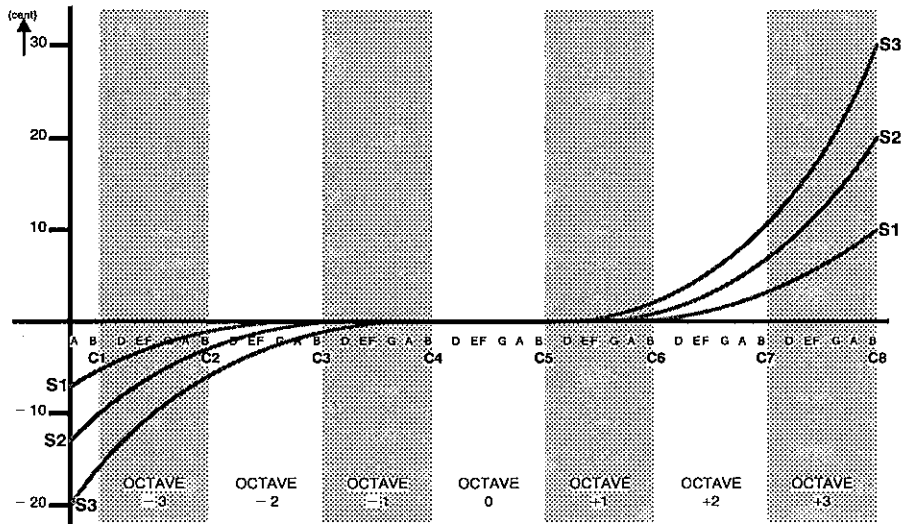
2c	C	•	D	•	E	F	•	G	•	A	•	B
	+16	-14	+20	+31	+2	+14	-16	+18	-12	0	+33	+4

Cの基準ピッチが
±0になるよう
自動的に全体から
16centを減じる。

2C、0 CENT NOTE = C

2c	C	•	D	•	E	F	•	G	•	A	•	B
	0	-30	+4	+15	-14	-2	-32	+2	-28	-16	+17	-12

STRETCH



アフター・サービス

■製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一保証期間内に、製造上の不備による故障が生じた場合は無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし次の場合の修理は有償となります。

- ①消耗部品（電池など）を交換する場合。
- ②輸送時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
- ③天災（火災等）によって生じた故障。
- ④故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
- ⑤KORG サービスステーション及び、KORG 指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が不適当であった場合。
- ⑥保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
- ⑦保証期間が切れている場合。
- ⑧日本国外で使用される場合。

■当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3カ月以内に限り無償修理となります。また仕様変更に関しては有償になります。

■お客様が保証期間中に移転された場合でも保証書は引き続きお使いいただけます。移転先のKORG製品取扱店、またはKORGインフォメーションセンターまでお問い合わせください。

■保証期間がきれますと修理は有料になりますが、引き続き、製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品（電子回路など）は通常8年間を基準に保有しております。ただし外装部品（パネルなど）の修理は類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。

■他にアフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

株式会社コルグ

インフォメーションセンター：〒168 東京都杉並区下高井戸1-11-17	TEL (03)5376-5022
東京営業所：〒168 東京都杉並区下高井戸1-11-17	TEL (03)3323-5241
名古屋営業所：〒466 名古屋市昭和区八事本町100-51	TEL (052)832-1419
大阪営業所：〒531 大阪府北区豊崎3-2-1淀川5番館7F	TEL (06)374-0691
福岡営業所：〒810 福岡市中央区白金1-3-25第2池田ビル1F	TEL (092)531-0166
■修理等のお問い合わせは最寄りの各営業所、または下記までお問い合わせください。	
営業技術課：〒160 東京都世田谷区南烏山4-28-20	TEL (03)3309-7004

< WARNING ! >

This Product is only suitable for sale in Japan. Property qualified service is not available for this product if purchased elsewhere.

Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

☆この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。

KORG

■本社：〒168 東京都杉並区下高井戸1-15-12 ☎(03)3325-5691 ■インフォメーションセンター：〒168 東京都杉並区下高井戸1-11-17 ☎(03)5376-5022
■東京営業所：〒168 東京都杉並区下高井戸1-11-17 ☎(03)3323-5241 ■名古屋営業所/ショールーム/スタジオ：〒466 名古屋市昭和区八事本町100-51
☎(052)832-1419 ■大阪営業所：〒531 大阪府北区豊崎3-2-1淀川5番館7F ☎(06)374-0691 ■福岡営業所：〒810 福岡市中央区白金1-3-25
第2池田ビル1F ☎(092)531-0166

1994 © KORG INC.

0606 CTH Printed in Japan